



2026年2月10日

2月6日から9日までの札幌圏における間引き運転の状況と 北海道エアポート株との連携について

1 概況

1月25日に札幌圏での記録的な豪雪及び低温の影響による大規模な輸送障害を発生させ、翌日以降もポイント不転換等により多数の運休・遅延が発生したことから、1月28・29日には最終列車を大幅に繰り上げて集中的な除雪作業を行わせていただきました。これらにより、新千歳空港に多くの滞留者を発生させ、また、最終列車の繰り上げに対しては、北海道運輸局様及び北海道エアポート様に臨時バスの運行を行っていただきました。

さらに、1月31日には、再び札幌を中心とした大雪の影響による輸送障害の発生、2月6日から9日には暴風雪予報などもあり、間引き運転※（2月1～3日、6～9日）や、除雪作業時間確保のための最終列車の繰り上げ（1月31日、2月3、7・8日）などを実行させていただきました。

これらにより、各方面の列車に多数の運休等が発生し、多くのご利用のお客様及び北海道エアポート様など関係の皆様に大変なご迷惑をおかけ致しましたことをお詫び申し上げます。

※間引き運転とは

ポイント不転換等により列車に遅延が生じた際、後続列車にも遅延が生じ、さらにその後続へと次々に遅延が波及し、結果としてダイヤが大幅に乱れることとなります。

そのため、一部の列車を運休（間引き）し、列車と列車の運転間隔を広げることで、後続列車への遅延波及を抑えます。

2 運休列車

【2月6日（金）】

272本（特急列車：10本、快速エアポート：38本、快速・普通列車：224本）
影響人員 約46,000人

【2月7日（土）】

181本（特急列車：5本、快速エアポート：38本、快速・普通列車：138本）
影響人員 約35,600人

【2月8日（日）】

202本（特急列車：30本、快速エアポート：38本、快速・普通列車：134本）
影響人員 約36,100人

【2月9日（月）】

134本（特急列車：4本、快速エアポート：40本、快速・普通列車：90本）
影響人員 約42,800人

3 1月 25 日の大規模輸送障害及び新千歳空港における大規模滞留を受けた改善の取り組み

1月 25 日の輸送障害時には、弊社から北海道エアポート㈱様への情報提供の不備などにより、多くの皆様にご迷惑及びご心配をおかけいたしました。この反省を踏まえ、即座に対応できるものから改善を図って取り組んでおります。

① ホットライン体制の見直し

弊社のホットライン担当者をこれまでの課長クラス 2名から部長クラスを含む 4名へ体制を増強しました。また、千歳線に関わる輸送障害発生時には、より具体的な状況を把握できる指令室に滞在して、北海道エアポート㈱様のその後の判断やお客様案内に資する情報を提供できるように努めています。

② お客様案内要員の増員

1月 25 日の大規模輸送障害、および集中的な除雪作業を行うための最終列車の繰り上げなどにより、北海道エアポート㈱様に、お客様対応等で多大なるご迷惑をお掛けしたことから、1月 27 日より、お客様案内のための応援要員を本社から新千歳空港及び空港ターミナルへ派遣し、協力してお客様案内を行いました。(雪まつり期間の週末で多くのお客様が見込まれる 2月 6 日～8 日には、各日 21 人の要員を派遣)

③ お客様への情報提供

間引き運転や最終列車の繰り上げ実施時、前日の夕方までにはお客様にご案内ができるよう、早めの判断および発表に努めました。また、1月 31 日に学園都市線で運転を見合わた際は、お客様に混乱を与えないよう、除雪作業終了のめどが一定程度立った段階で運転再開見込みを発表させていただきました。

【参考】 手稲駅構内の除雪作業（2月 8 日）

